

平成27年度「全国学力・学習状況調査」における 上津役 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語, 算数, 理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語, 算数, 理科)

主として「知識」に関する問題(A)	主として「活用」に関する問題(B)
<ul style="list-style-type: none">・ 身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容・ 実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	<ul style="list-style-type: none">・ 知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力・ 様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

上津役 小学校「平成27年度 全国学力・学習状況調査」の結果について

1. 教科に関する調査結果の概要

① 学力調査(国語A・B, 算数A・B, 理科)結果

		国語 A	国語 B	算数 A	算数 B	理科
平成 2 5 年度	本市	60.3	46.3	74.6	56.5	
	全国	62.7	49.4	77.2	58.4	
平成 2 6 年度 (理科：平成24年度)	本市	69.1	52.6	76.2	55.4	59.7
	全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
平成 2 7 年度	本市	67.1	62.1	73.3	43.7	57.3
	全国	70	65.4	75.2	45	60.8

② 学力調査結果の分析

国語A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全体的には、全国平均を下回っていたが、漢字を読むことや、基本的な「書く力」はついている。 表現の工夫を捉えたり、文章から必要な情報を読み取ったりする力に課題がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を読むことの正答率は高かった。 具体的な事例を挙げて説明する文章を書くことの正答率は高かった。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> あまり使わない単語の漢字は、正答率が低かった。 新聞のコラムを読んで、表現の工夫を捉えることの正答率が低かった。 	

国語B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 目的に応じ、中心となる語や文を捉えることの正答率が全国平均と同等だった。 情報をまとめて、文に表すことに課題がある。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 音読の工夫について、よく理解している。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じ、記事に見出しをつけることの正答率が低かった。 文章と図を関係づけて、自分の考えを書くことの正答率が低かった。 	

算数A	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> ほとんどの設問で、全国平均を上回っていた。 図形領域に若干課題が見られた。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 基礎的・基本的計算では、正答率が高かった。 グラフに表されている事柄を読み取ることの正答率が高かった。 	上回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 加法における計算の確かめの正答率が低かった。 180°より大きい角度を求めることの正答率が低かった。 	

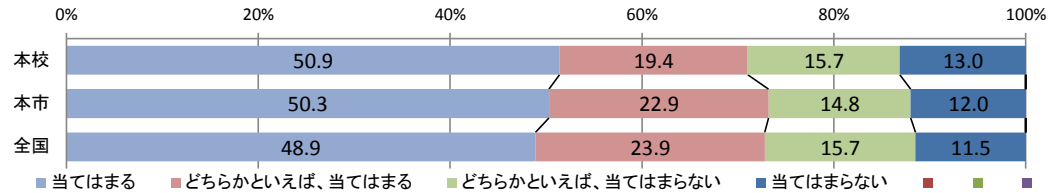
算数B	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 全国平均を下回っていたが、無回答率が低く、一生懸命に問題を解こうとする姿勢がうかがえた。 割合に関する設問の正答率が全国平均と同等、もしくは、上回っていた。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 単位量あたりや基準量を求める割合の設問の正答率が全国平均を上回っていた。 四捨五入を使った計算の正答率は全国平均と同等だった。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 示された二組の道のりが等しくなる根拠として、図形を見出し、その図形の性質を記述することの正答率が低かった。 正三角形の性質を基に、示された周の長さから辺の長さが等しくなる位置を求めることの正答率が低かった。 	

理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 自然体験が少なく、理科に対する関心が低く、全国平均を下回っていた。 理科においても無回答率が低く、問題に一生懸命に取り組む姿がうかがえた。 	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	<ul style="list-style-type: none"> 植物の適した栽培場所について、成長の様子と日光のあたり方を適用して、その内容を記述することの正答率が高かった。 	下回っている
	努力が必要な問題	<ul style="list-style-type: none"> 振り子が1往復する時間を変える要因を調べるための実験について、条件を考えながら構想する問題の正答率が低かった。 	

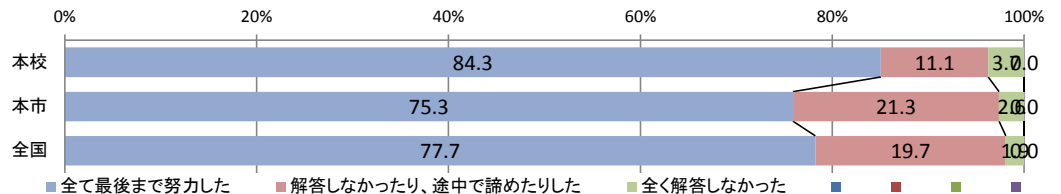
③ 学校での学習状況に関する調査結果

質問番号
質問事項

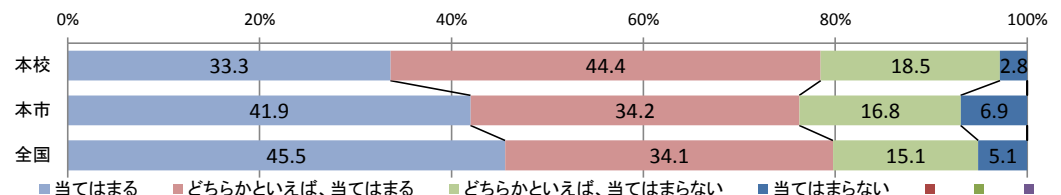
51
読書は好きですか。



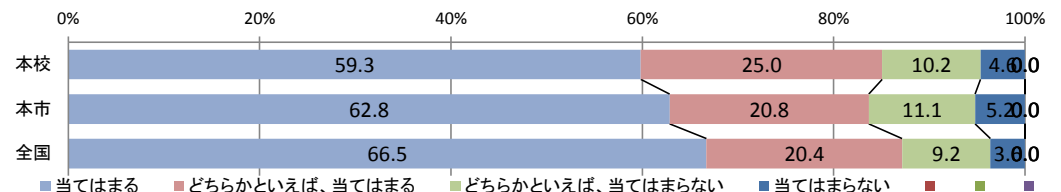
57
今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、それらの問題について、どのように解答しましたか。



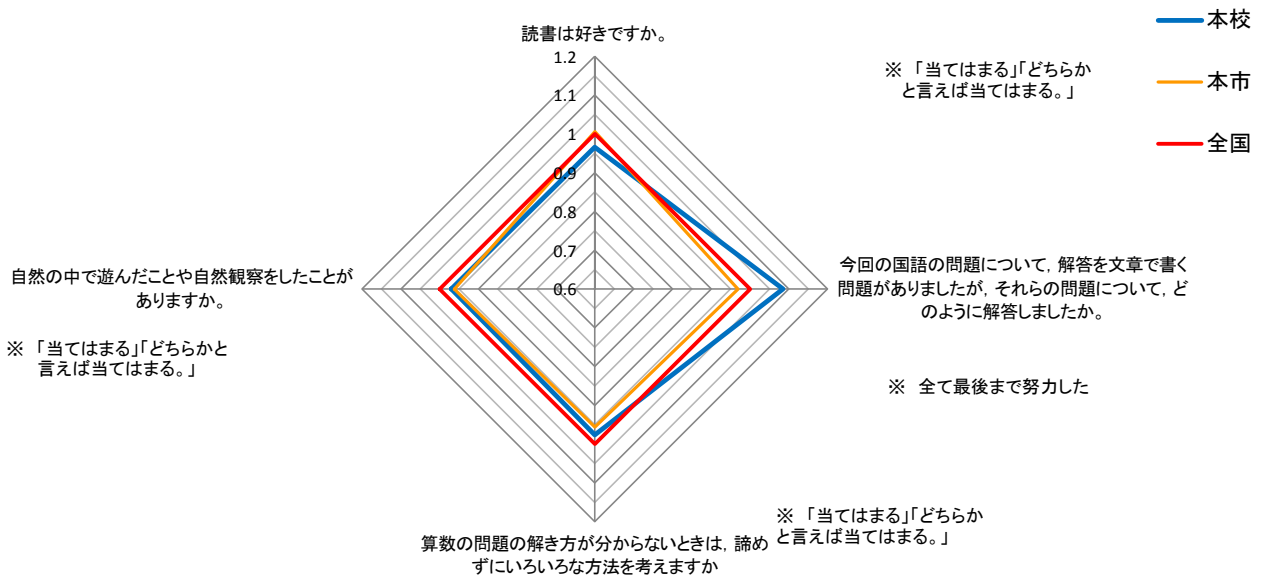
62
算数の問題の解き方が分からないときは、諦めずにいろいろな方法を考えますか



72
自然の中で遊んだことや自然観察をしたことがありますか。



④ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑤ 学校における学習状況に関する調査結果の分析

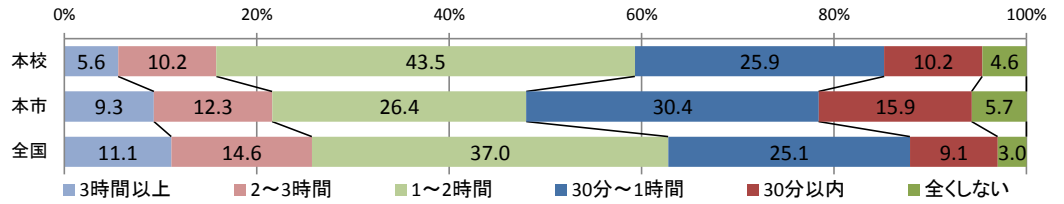
- ・ 「読書が好き」と回答した児童の割合が全国平均を若干下回っている。さらなる読書活動の啓発が必要である。
- ・ 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題」については、最後まで努力したと回答した児童が多い。また、「算数の問題の解き方が分からないとき」についても、諦めずに解こうとしている児童が多い。このことから、国語や算数の学習に関して、粘り強く取り組んでいる様子がうかがえる。
- ・ 自然の中での体験活動が少ない児童がいることから、本校の教育活動に、校区の環境を生かした体験活動を意図的に仕組む必要がある。

2. 家庭生活習慣等に関する調査結果の概要

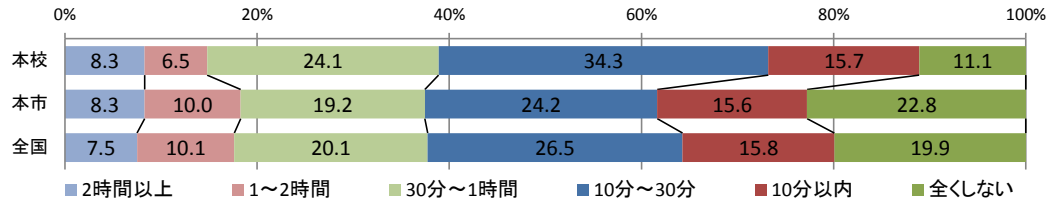
① 家庭学習習慣に関する調査結果

質問番号
質問事項

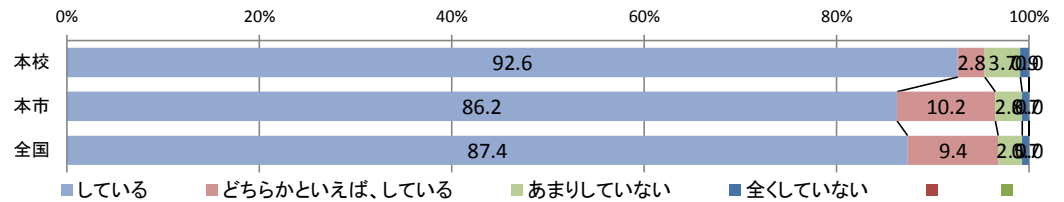
13
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教えている時間も含まれます。)



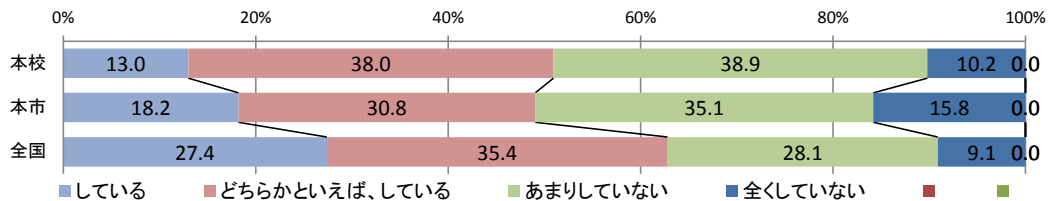
16
学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。(教科書や参考書、漫画や雑誌は除きます。)



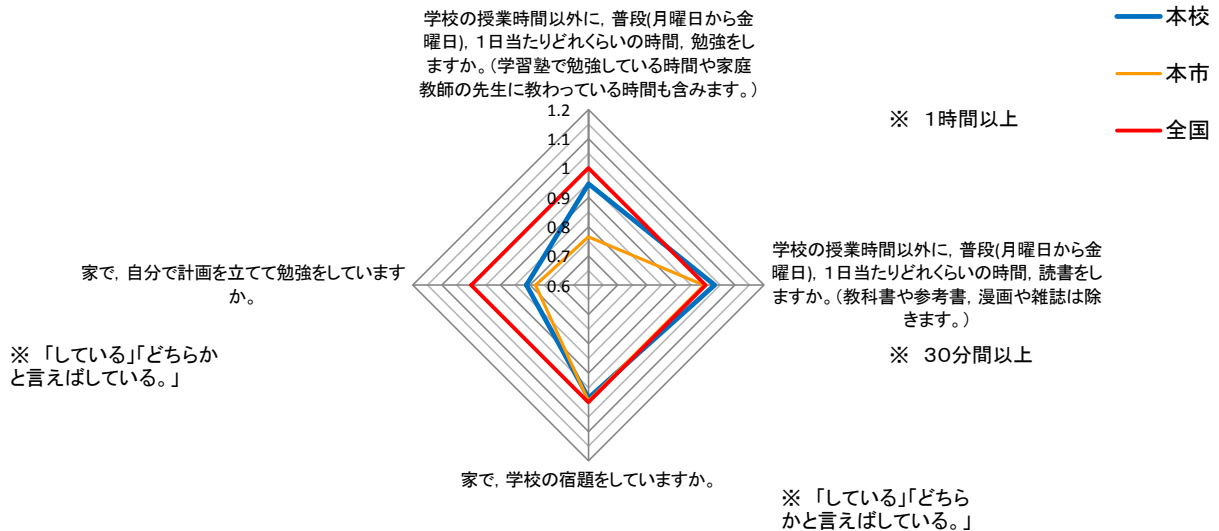
21
家で、学校の宿題をしていますか。



20
家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか。



② 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



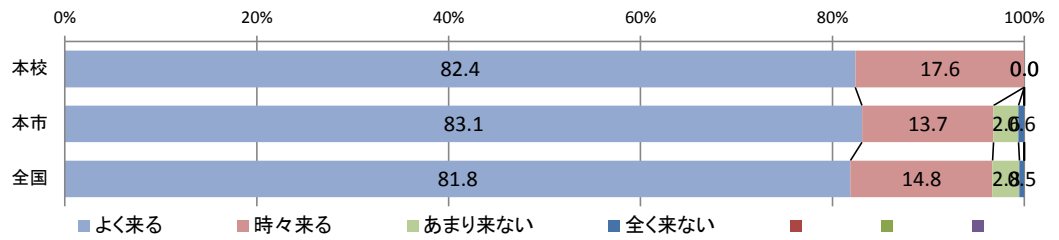
③ 家庭学習習慣に関する調査結果の分析

- ・ 平日に1時間以上家庭学習をしている児童の割合が昨年度より減っており、課題が見られる。家庭学習や読書の取り組み方を指導する必要がある。
- ・ 学校の授業以外の読書時間は、全国平均を上回っている。家庭での読書活動を推進していきたい。
- ・ 家で、学校の宿題をしている児童の割合は、全国平均並みだが、家で、自分で計画立てて勉強をしている児童は、全国平均より約10ポイント差が開いており、課題がみられる。

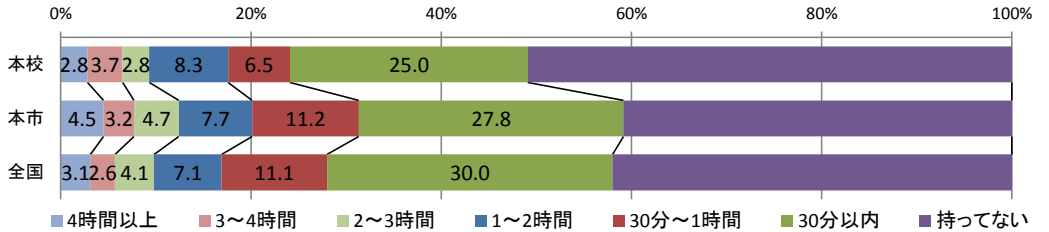
④ 生活習慣等に関する調査結果

質問番号
質問事項

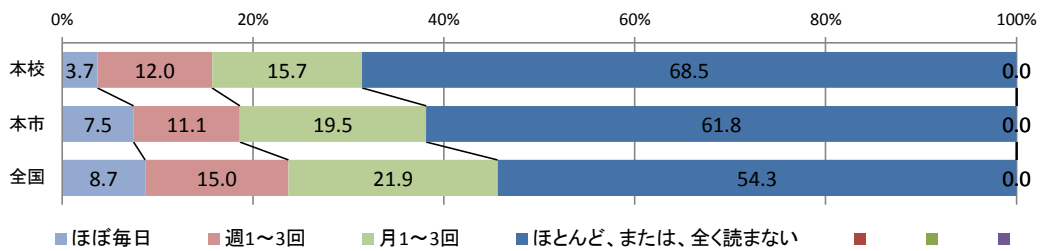
19
家の人(兄弟姉妹は含みません。)は、授業参観や運動会などの学校の行事に来ますか。



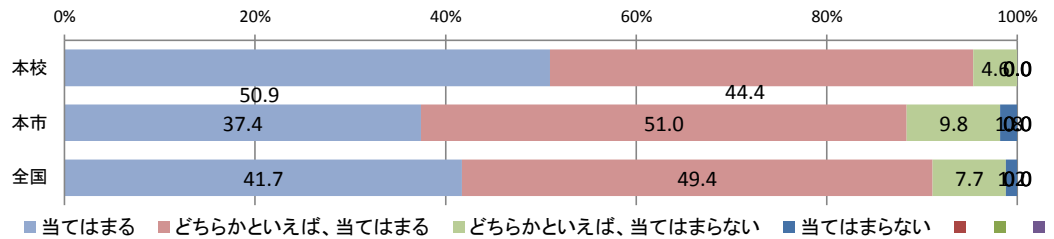
12
普段(月曜日から金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか。(携帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間は除きます。)



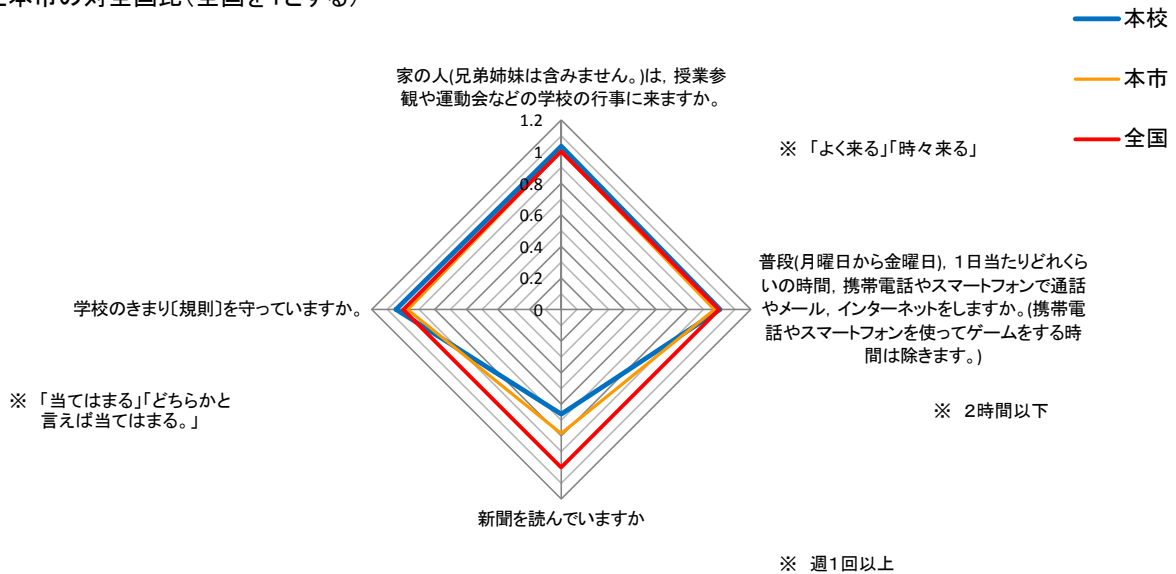
30
新聞を読んでいますか



32
学校のきまり(規則)を守っていますか。



⑤ 本校と本市の対全国比(全国を1とする)



⑥ 生活習慣等に関する調査結果の分析

- ・ 家の人の学校行事に参加する割合が100%となっている。また、携帯電話やスマートフォンの接触時間も少なく、子どもの生活に関心が高い保護者が多い。
- ・ 国語等の学習の中で新聞を活用した授業の展開が必要と考える。
- ・ ほとんどの児童が、学校のきまりをよく守っており、落ち着いた学校生活を送れていることが伺える。

3. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組(全校・学年・学級・教科毎の取組)

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

- ◎ 学力向上推進委員会や学力向上に関する職員会議の実施
 - ・ 特設時間(朝の10分間の学習)の取組の成果を報告 ・ 下半期の取り組みと長期休みの取組の共通理解
- ◎ 特設時間の改善
 - ・ 火(ひまわりタイム)水(朝の学習)木(計算タイム)金(視写タイム)
 - ・ お昼の読書タイムを全校一斉放送で知らせる。
- ◎ 各学年の実態に応じて「書くこと」「読むこと」の習慣化を図る。
 - ・ 日記をつける。 ・ 一人一冊自分の辞書を机に置いておく。 ・ ひまわり暗唱をより進める。 ・ 百人一首を行う。
 - ・ 国語や算数等の時間で身につけたことを総合的な学習の時間などでしっかり活用できる学習活動を組んでいく。等
- 過去問題、アシストシートの活用
 - ・ 長期休みに宿題として出し、休み明けに、クラスで解答の仕方を考えて、答え合わせをする。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- さらなる「生活がんばりカード」の推進
 - ・ 昨年度から今年度にかけての「生活がんばりカード」の成果を発信する。
 - ・ 基本的な生活習慣の大切さを家庭に啓発していく。
- 家庭学習の推進
 - ・ 「家庭学習チャレンジハンドブック」を効果的に活用する。特に、「家庭学習のポイント」を再確認する。
 - ・ 計画的な家庭学習の取り組み方をもう一度児童と確認し、定着を図る。
 - ・ 学年通信で家庭学習の内容を知らせる。
- 全国学力・学習状況調査の課題と学力向上の取組を保護者に発信する。